

## タイトル：NIHONBASHI SPACE WEEK 2023にて、トークセッションおよび衛星データ解析講座のデモンストレーションを行いました！

### 本文：

2023年11月27日（月）～12月1日（金）、日本橋エリアにて開催されたNIHONBASHI SPACE WEEK 2023に出展しました。

NIHONBASHI SPACE WEEKとは、日本の宇宙ビジネスの中心地・日本橋にて、一般社団法人クロスユーが主催する、国内外の宇宙プレイヤーが一堂に集結する世界有数の宇宙ビジネスイベントです。本イベントは年々盛り上がりを見せ、今年は53社・団体が出展・参加し、過去最大の開催規模となりました。

CONSEOでは、11月27日（月）～11月29日（水）の3日間、EXHIBITIONにJAXA（宇宙航空研究開発機構）ブースと併設する形で展示をしたほか、11月28日（火）にはCONFERENCE STAGEにてCONSEOステージと称してトークセッションおよび衛星データ解析講座のデモンストレーションを実施。

11月30日（木）～12月1日（金）の2日間は、パートナープログラムとして、衛星開発やデータ利用のアイデアのヒントを得て頂くと共に、アイデアを形にする、基礎体力をつけることを目指したスクール「CONSEO もくもくスクール」を開校し、衛星データ解析にかかる座学から、起業にかかる講演、衛星データに触れてみるような面白いクラスを開催しました。

11月28日（火）に開催された「CONSEOステージ～衛星データ利用の奥深さ、可能性への気づき～」では、

プログラム前半では「柘さんが掘り下げる！ 衛星×未来」と題して、CONSEO広報アンバサダー柘さんが、「シン・ニホン」の安宅さん（慶應義塾大学/LINEヤフー）や関本教授（東京大学）、沖さん（JAXA）との対話で深掘りを行いました。



冒頭では、パネリスト沖さん（写真右から2人目）から、「データを提供する立場であるJAXAとして、情報を用意するだけでは地球衛星観測データをなかなか活用いただけないのが悩みで

ある」という話題提起から、そもそも衛星からデータを得るメリットとは何か？というディスカッションを行いました。

ディスカッションの中では、関本教授（写真左から2人目）らの作成された「全国版疑似人流データ」を閲覧しながら、「全球（地球全体）を見ることができる」という観点で、従来は地上の一部からしか得られなかった情報が、衛星からデータを得ることにより一網打尽に客観的なデータが得られることが特にメリットであると述べられました。

安宅さんからは「データというものは金脈である。データは情報のメッシュの細かさが非常に重要で、『このあたりに腫瘍がある』と『具体的に、ここの血管に腫瘍がある』というものでは精度がまるで違う。」というコメントがあり、衛星から全球の情報を得られる可能性の大きさについて示唆を得られました。その他、地球デジタルツインやコンパクトシティの実現において、衛星が提供できるデータの可能性にも触れられました。

トークセッション終盤では、パネリストの方々から今後衛星産業に関わろうとする方へメッセージが送られました。

関本教授「衛星データを分析することに楽しさはあるが、何に役立てて、何で儲けようかなど、研究者でもサービスレベルまで落とす、自分たちが事業を作っていくことが必要だと思う。」

沖さん「目的意識を持ってやってみようという気持ちが重要だと思う。学んでないからやらない、ということをおわないでほしい。『求めれば与えられん』の精神で、やってほしい。」

安宅さん「現在UI革命が起きている。データ活用はビジュアライゼーションが重要だと思う。言葉で情報を聞いても人はわからない。ビジュアライゼーションをやらないと人に届かない。インタラクティブデザイン、ビジュアライゼーションの需要が非常に高く、とても可能性がある。また、日本のスペース情報の活用は非常に遅れている。つまりは『やれば先駆者になれる』ということ。外資が押し寄せてくる前に、日本企業にやってほしい。まずは『わかっていることからやる』をやってほしい。」

プログラム後半は、「柵さんが触る！衛星データ～CONSEOもくもくスクール ショートデモ～」と題して、一般財団法人リモート・センシング技術センター（RESTEC）ソリューション事業第二部 調査普及課 課長 亀井 雅敏 さんが、衛星データ解析講座のデモンストレーションを実施しました。



デモンストレーションは、RESTECの提供する「VEGA」を使用して行われました。VEGAは、Google Earth Engine 上で動く衛星データ可視化アプリで、RESTECが開発し無償公開しています。VEGAを使えば、無料公開されている衛星データを簡単かつ瞬時に可視化・解析し、様々なカラー合成画像を作成できます。

亀井さんは、衛星データの活用・分析は「俯瞰的に地上を見下ろすことができる」点と「日付で比較できる」点にあると、デモンストレーションを通して述べました。例えば防災面では、大雨、洪水、暴風などの災害発生時、衛星データを活用することで、どこの地域が・いつ、孤立・被害が出ているかを、俯瞰的にかつ正確に把握しやすくなります。そうすることで、災害支援の迅速かつ効率的な推進や、災害派遣の人員の安全にも繋がります。

デモンストレーションの最後に、亀井さんは「データを漠然と見てもわからないが、目的を持つと様々な情報を得ることができる。RESTECとしても考えてもない使い方があると思う。企業にもリモセン業界に入ってもらってやっていきたい。」と述べました。

CONSEOステージは、約300の方に聴講いただき、盛況のまま幕を閉じました。

11月30日（木）～12月1日（金）「CONSEO もくもくスクール」の報告レポートにつきましては、[こちら](#)をご確認ください。